

# 肝細胞癌に対する経カテーテル治療(transcatheter arterial chemoembolization; TACE)の予後因子の解析

## 【はじめに】

肝細胞癌はその多くが動脈血で栄養されています。そのため、腫瘍を栄養する肝動脈内に経カテーテル的に抗癌剤や塞栓物質を注入する肝動脈化学塞栓療法(transcatheter arterial chemoembolization; 以下TACE)が有用な治療法として以前から施行されてきました。

このTACEという治療法は、切除ができない肝細胞癌の予後延長に寄与するとされていますが、どういった腫瘍に対してより高い効果が得られるのかは、依然として不明です。血流が豊富でたくさんの抗腫瘍薬を取り込む腫瘍は効果が高いと予想されます。またカテーテルをより腫瘍に近いところまで進めることができれば、効果が高いと予想されます。そこで私たちは治療前の画像所見や手技中の因子と、治療効果の関連を調べたいと考えています。

## 【対象】

2004年1月1日より2014年12月31日の間に、九州大学病院にて肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、肝臓・膵臓・胆道内科もしくは免疫膠原病・感染症内科、総合診療科を受診し、EOB造影MRIを撮像した肝細胞癌の方(約600例)を対象とします。

## 【研究内容】

•対象の方の臨床情報(年齢、性別、B型慢性肝炎の有無、C型慢性肝炎の有無、アルコール性肝炎の有無、Child分類、Alpha-fetoprotein(AFP)値、Protein induced by vitamin K absence or antagonist-II (PIVKA-II)値)、画像所見(腫瘍の大きさ、個数、血管侵襲の有無、被膜の有無、遠隔転移の有無、MRIの各種撮像法での信号強度)、使用薬剤、塞栓物質量、TACE治療時の所見(カテーテル先端位置、血管増生の程度、治療直後CTでのCT値や薬剤分布)、を調べます。そして治療効果および予後(再発や生存の有無)と対比します。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2018年3月31日まで。

## 【医学上の貢献】

肝細胞癌の治療効果の向上と、個別の患者様に応じた治療法の確立を目指します。

## 【データの二次利用について】

本研究で得られたデータを別の研究に二次利用する可能性があります。その場合は改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認を受けた上で利用いたします。本研究で得られたデータは、研究終了後に速やかに消去いたします。記録媒体やCD、DVDに記録されているデータは、個人情報識別できるような情報が不可能な状態にした上で廃棄します。

## 【研究機関・組織】

- 研究責任者 医学研究院 臨床放射線科学 教授 本田 浩
- 研究分担者 九州大学病院 臨床放射線科 講師 浅山良樹、助教 石神康生、助教 牛島 泰宏、  
助教 藤田展宏
- 医学研究院 臨床放射線科学 講師 西江昭弘、助教 岡本大佑
- 医学研究院 放射線医療情報・ネットワーク講座 助教 高山幸久、
- 医学研究院 消化器・総合外科 准教授 調 憲
- 九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 講師 古藤和浩
- 九州大学病院 免疫膠原病・感染症内科 講師 下田慎治
- 医学研究院 感染制御医学 准教授 古庄憲浩

## 連絡先

担当者：九州大学病院 臨床放射線科 講師 浅山良樹  
TEL 092-642-5695、FAX 092-642-5708  
E-mail: asayama@radiol.med.kyushu-u.ac.jp